自作教具の活用事例

<table>
<tr><td>【作品名】
サイコロ TPO</td><td>【学校名】
日立市立山部小学校</td></tr>
<tr><td>【活用できる領域・教科等】
自立活動</td><td>【制作者名】
薄井　真弘</td></tr>
<tr><td>【制作の意図】
ゲーム感覚で楽しみながら、コミュニケーションの練習を行うことができる。選択肢からその後の展開を実践することで、適切なコミュニケーションをとるスキルを高めていく。</td><td>【使用方法】
人数は自由。サイコロを 2 回ふり、出た目の積に割り当てられた質問に答える。サイコロをふった人が当事者、次の人が相手役（友達・先生など）になり演技を行う。順番でない人も自分だったらどうするか考えるように促す。</td></tr>
<tr><td>【制作上の工夫】
SST の実例集をベースに、児童の実態に合わせて、質問の内容を変更した。普段とっさに行動してしまうことを振り返り、客観的視点から自分の行動を考えることができるようにした。質問の回答も同様に、普段の行動に即して回答例を用意した。</td><td rowspan="2">【見取り図】
〈こんなときどうするの？〉の例
1.友達同士がけんかしていたら
①「やめなよ。」と声をかける。
②自分には関係ないから、放っておく。
③先生を呼ぶ。

2.忘れ物をしたら
①怒られるのがいやなので、だまっておく。
②先生に伝えて、どうしたらいいか聞く。
③家に帰る。</td></tr>
<tr><td>【写真】

</td></tr>
<tr><td>【材料・材質・部品等】
・割り当て表
・質問用紙
・サイコロ</td><td>【使用効果と応用発展】
役割を交代しながら、演技をしたり友達の演技を見たりすることで普段の行動を振り返り、客観的視点で自己を見つめ直すことができる。
回答例を一例として、児童同士でもっとよい伝え方はないか、どのようにコミュニケーションをとるのがよいかを話す機会の導入として活用できる。</td></tr>
</table>